

本書を読むにあたって

本書は、『実践東洋医学』全3巻シリーズの第2巻にあたる。本シリーズは、東洋医学の考え方にもとづく病気の見方・考え方を平易に解説したもので、チャート図や表を豊富に収載して視覚的に理解を助ける工夫をしたほか、適宜、症例を織り交ぜながら東洋医学の病態理論・方剤の解説を心がけた点に特長がある。

第2巻では、まず東洋医学の生理理論の基礎として気・血について解説した後、病態理論の基礎として発病の仕組み・病因・病位・病態・病期、さらに気の病態・瘀血の病態・津液の病態について紹介する。さらに治療理論として生薬・方剤・副作用等について紹介する。

【記号・符号の意味】

† 巻末の「用語解説」に解説がある用語を示す。

注 注釈を示し、符号を記した節の最後に解説がある。

※ 注釈を示し、記号のすぐ近くに解説がある。

POINT 著者が特にポイントになると考えた箇所。

原文 古典の引用。

* 医療用漢方製剤にない方剤を示す。巻末に組成を示している。

【第1巻の章立て】

- 第1章 総論
- 第2章 東洋医学の診断方法
- 第3章 主要症状の診断
 - I 全身症状
 - II 疼痛症状
 - III 月経異常

【第3巻の章立て】

- 第1章 臓腑理論
 - I 臓腑総論
 - II 各臓腑の生理と病態
 - III 臓腑合併病態
- 第2章 傷寒と温病理論概説